

原点という 財産。【福山城】

2022年に築城400年を迎える福山城。
福山のまちや暮らしの原点ともいえる
この城はどのように生まれ、根付いたのか。
その歴史や伝統を追いかけてみました。



水野勝成の墓所
(賢忠寺23世住職)

水野勝成の墓所

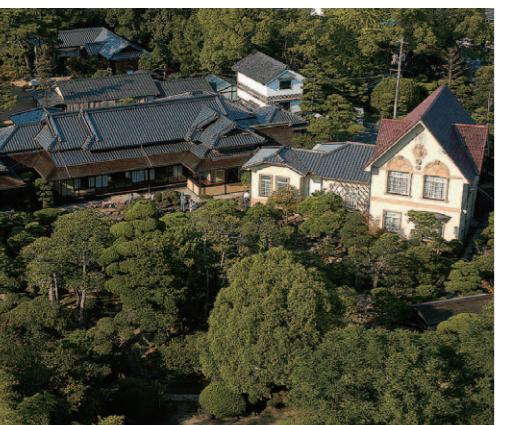
福山城を築城した初代福山藩主水野勝成は88歳で没し、この賢忠寺の境内に眠っています。墓は巨大な五輪塔で高さは5.1mに及びます。毎年春に勝成を偲ぶ法要をこの寺で行います。福山のまちをつくった勝成の業績や情熱を後世に伝えていくのが私の役割です。



多彩な「和」の設えが
「二期一會」を
演出してくれます。



佐藤厚子さん
(日本礼道小笠原流福山支部会長)



福寿会館

福山城の北側にあるこの福寿会館で年に5回はお茶会を開いています。大きなお茶会では400人くらいが参加するため、本館の大広間を使わせていただくことが多いですね。書院造りや数寄屋造りなどの和の設えが「一期一会」をより格調高く演出してくれますよ。



藩校「誠之館」

藩校「誠之館」は1854年に福山藩主阿部正弘が創設。正弘は当時の江戸幕府で老中首座を務め、勝海舟などを登用しました。日本の未来を担う人材育成に力を入れた正弘の情熱を受け継ぎ、今に生かしていくのが私たちの役割。同窓会活動を通じて福山を盛り上げていきたいものです。



山口哲治さん
(福山誠之館同窓会副会長)

人材育成に懸けた
正弘の情熱を
受け継ぐ。



ふくやま美術館

会員63人で作品の解説や運営のお手伝いをしています。福山駅北側すぐという立地の良さと、日本近代美術やイタリアを中心としたヨーロッパの名作が揃う充実した作品群がこの美術館の魅力。館内の窓からは美しい福山城や庭の眺めも楽しめるんです。



高橋純さん(ふくやま美術館ボランティア「くすのき」会長)

美術を愛好し
四季を愛でる
美意識を育む。



春の福山城



戦前の福山城

まちの歴史は、
この城から始まった。

福山城は西国鎮衛の拠点として、徳川家康の従弟にあたる水野勝成が1619年に備後10万石の領主となり、築城にかかりました。

城の敷地に選ばれたのは、当時は干潟だった芦田川のデルタ地帯でした。この地に旧領主福島正則の支城であつた神辺城から多くの櫓を移築。第一代將軍徳川秀忠の命により豊臣政権のシンボルだった伏見城からも伏見櫓や本丸御殿を移築。五層の天守の周辺に配しました。

城の完成は1622年。本丸に12基の櫓、二の丸、三の丸を合わせると26基の櫓が立ち並んだといいます。築城と同時に城下町の整備も進め、まちを福山と名付けました。

「当時の藩政は、民衆の暮らしをとても大切にしていたんです」。そう語るのは2008年から福山城の観光ボランティアガイドを務める村上範慥さん。全国で5番目に早いとされる上水道の設置、地子錢（現在の固定資産税）の免除、寺社復興、産業の奨励など、勝成の業績は多く挙げられます。このほか沿岸部でい草や綿花の栽培も奨励。ひんご量表や備後紺は今もこの地域の特産品となっています。「まさに福山のまちや暮らしの原点がここにあるのです」と村上さん。

その後城主は水野氏5代、松平氏1代、阿部氏10代と続き、明治初期の1873年に廃城。1945年の空襲により天守閣や御湯殿などは焼失したものの、1966年の市制施行50周年記念事業としてこれらを復元しました。焼け残った伏見櫓や筋鉄御門は国的重要文化財に指定されています。現在、福山城のある福山城公園には、ふくやま美術館や福寿会館をはじめとするさまざまな施設が集まり、文化の発信地として親しまれています。



村上範慥さん
(福山城博物館友の会会長)

